

平成29年度 下伊那農業高等学校 学校評価表

67 長野県下伊那農業高等学校

評価項目	評価の観点	アンケート集約
農業教育を充実させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の必要性や素晴らしさを生徒に伝えることができたか。 ・グローバル・アグリハイスクール宣言の5つのミッション、10の具体的実践について新たな取り組みができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業をとおしての地域理解や人的交流が盛んに実施され、報道機関等で取り上げられる機会も多かった。また、こうした実践が生徒の自信となるとともに農業に対する興味関心も一層高まったと思う。 ・人が生きる上で最も大切な「食」を支える農業、自然環境を支える農業について授業やHRで生徒に考えさせることができた。
資格取得を充実するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が資格取得に興味関心を示し、生徒ひとり一人が二種類以上の資格取得に取り組むことができるように指導することができたか。 ・時間外の講習会や長期休業中の補習を充実させ、合格率8割を目指すと共に、生徒にとって満足いく成果が得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比較して、資格取得に挑戦する生徒が増えている。合格率は資格により異なるが、毒物劇物取扱者試験など難しい資格にも積極的に受験し成果をあげる生徒の姿が見られた。 ・今後も、生徒が積極的に資格試験に挑戦できる環境づくりや指導を継続していく必要がある。 ・英語検定、数学検定、漢字検定他農業に関する資格を取得することの大切さを示し、検定や資格取得に取り組むことを勧め、普段の学習。
学習意欲を向上させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を向上させるため、校外実習や外部講師による授業など、授業内容を工夫し実践することができたか。 ・生徒にとって分かりやすい授業を実践することができたか。 ・また、理解できない生徒に対して事後指導がしっかりできたか。 ・年間を通して曜日のバランスを考え、授業時間数を確保することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目では外部講師の活用や校外実習などを積極的に取り入れた授業を行うことができた。 ・「授業評価」の評価結果を踏まえ、例えばI T C器機を利用したり独自の教材を作成するなど分かりやすい授業への実践や取り組みを進めることができた。 ・理解が進まない生徒へはテスト前に補習を行い、学習意欲の向上に努力した。 ・授業時間の確保や、定期テスト間の授業時数のバランスを考え年間行事予定を組む努力を行った。
進路希望を実現させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒の実態に合った計画的指導ができたか。 ・進路が多様化する生徒に対し情報提供が十分かつ的確にできたか。 ・進学希望者に対する教科補習が十分できたか。 ・生徒が希望する進路を実現することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を行い、3年生の進路先が卒業時まで決定することができた。特に就職希望者の多くが早い時期に内定をいただくことができた。また、公務員への就職も、8名と近年の中では多くの合格者を出すことができた。 ・補習等の参加人数は少ないが、小さなことの積み重ねにより成果が出ることを生徒・職員とも気がつくことができた。 ・3年生が1、2年生に進路の決定について実体験を話すことにより、進路に対する希望や意欲の向上が見られた。 ・大学・短大等進学予定者に対する、進学後も見据えた学習指導を早い段階から実施していくことが必要である。
地域を理解し、地域との連携を深めるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に参加し、活動した取り組みであったか。 ・地域の文化を取り入れた内容の活動を行い、地域文化を理解させることができたか。 ・実施した取り組みが、相手や地域の理解と評価を得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽やインターアクトクラブでは地域からの依頼を受けて、演奏やボランティア活動に出向くことはかなり多かったと考える。インターアクトクラブの独自研修では、この地域の食文化の五平餅を作り外国の食文化との交流を考えている。 ・食品科学班やアグリ研究班では多くの地域イベントに参加し、班活動での取り組みや本校教育活動の内容を地域のみなさんに紹介し広めることができた。
基本的生活習慣を確立するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「身だしなみ」をきちんとする指導の実践ができたか。 ・問題行動を未然に防ぐ予防的指導ができたか。 ・集会の時は迅速に集合・整列し、整然とした集会を実施することができたか。 ・気持ちよい挨拶を習慣づけることができたか。 ・校内外の清掃活動を通して、ゴミの分別を徹底させ、リサイクルの必要性について認識させることができたか。 ・時間のけじめをつけさせ、休み時間の有効活用によるスムーズな授業開始や遅刻をなくす指導ができたか。 ・いじめを許さない学校作りを進め、生徒が発する小さなサインを見逃すことのない指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年同様、始業式、試験期間中などで検査を実施した。スカート丈については昨年度の強化指導と、本年度も指導を継続し成果があったと考える。身だしなみ全体の検査結果延べ件数も大幅に減少し、生徒の意識は高まっていると考える。但し、検査時のみ服装を整える生徒や、プレーザーの丈が短い生徒がおり次年度の継続課題だと考えている。 ・身だしなみチェックを重ねる中で、指導する教員の意識と姿勢を一つにすることにより効果的な指導ができると考える。完璧でなくても身だしなみに気をつけようとする姿勢や注意に耳を傾ける生徒が増えている。 ・HRや全校集会での呼びかけ、全職員による校内外の巡回指導等を実施した。「反省指導」「現金盗難」等の問題行動は過去6年間と比較すると最も少ない件数であった。次年度も引き続き問題行動を未然に防止するための対策に継続的に取り組みたい。 ・名簿番号順に整列することや列を整えることなど課題は残ったが、概ね整然と整列し集会を行うことができた。 ・集会を整然と行うことができ、校友会総会では様々な意見が出るなど生徒の自主性が増してきている。 ・生活委員中心の挨拶運動を実施し、挨拶に対する意識の高揚は本年度も行った。しかし、以前に比べると不十分な生徒も多く見られた。社会に出て活躍できる人材を育成するためにも引き続き継続的に全校で取り組んでいく必要があると考えられる。 ・清掃は多くの生徒が自主的に取り組んでいる。ゴミの分別、資源のリサイクルについてはほとんどの生徒が認識し実行に移すことができている。 ・授業開始時間に対する意識の低い生徒が見られたが、粘り強く指導することにより改善される方向に進んでいる。 ・朝の遅刻が常態化している生徒も見られ、指導を徹底させることが重要だと考えられる。 ・29年3月に国の「いじめ防止等の基本的な方針」が改定され、本校でも「学校いじめ防止基本方針」の見直しを行った。生徒の「些細な変化」に気付き、全職員で情報の共有、チームによる解決を職員に徹底し対応した。小さなトラブルでも「いじめの背景」は見られないか観察・指導した結果、重大ないじめ事案は発生しなかった。しかし、表に出ないSNS等でのトラブルは存在していることも考えられる。今後もさらにいじめ対策委員会を中心に、注意深く見守り指導を継続する必要がある。 ・いじめに向かう姿勢が教員間の中に協力体制を生み、また生徒間でも支え合う形が見られた。
課外活動を充実するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が課外活動に積極的に参加し、活動することができたか。 ・個々の生徒が目標とする成果をあげることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの班活動で県大会に進むなど大きな成果が見られた。7人制ラグビーの全国大会出場や吹奏楽班の4年連続東海大会出場および金賞受賞など活躍が見られた。 ・クラブ活動を通して、生徒が目標を持って学校生活に臨めるよう環境を整えていく。
安全教育を推進するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育に対する研修の機会を設け、それに参加することができたか。 ・あらゆる場面で、生徒の安全を意識した教育活動を実践することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講話の開催、HRでの交通マナーへの呼びかけ、二輪車協会によるバイク点検の実施、交通安全週間での街頭活動等を行った。しかし、残念ながら1年生を中心に、自転車事故は例年並みの件数であった。交通マナーに対する呼びかけを継続していく必要がある。 ・交通安全のリアルな映画の効果もあって、安全に対して真剣にとらえようとする様子が多くの生徒から見られるようになった。